

令和 5 年度 東京都立東大和南高等学校 学校経営報告

校長 川瀬 徹

はじめに 本年度学校経営における「成果・問題点・今後の姿勢」は以下の通りである。

「教育活動の成果」

- 海外学校間交流推進校の指定を受け、国際交流事業を以前にも増して取り組んだ結果、実用英語検定準 1 級合格者が昨年度 3 名から本年度 7 名に倍増し、2 級は昨年度 77 名から本年度 144 名まで増加、準 2 級は昨年度 94 名から本年度 136 名まで増加を見た。
なお、GTEC では 38 期生（令和 6 年 3 月卒業）では、2 年生 7 月から 12 月と 2 年生 12 月から 3 年生 6 月という約半年で 40 点上げられ、1 年間で 82 点上げているのでかなり 4 技能の力が伸びている。3 年生の全国平均スコアは 821 に対して 884.5 点という結果がでている。4 技能の中で最も長けているのがリスニングである。B1 レベルが 120 名と学年の受験者の約半数が到達＝ほぼ英検 2 級以上とみなせる。
- 生徒の 85%以上・保護者の 75%以上が本校の教育目標（克己・友愛・創造の心を培う）を知っていると回答している。
- 約 90%の生徒・保護者が「本校に入学してよかった」と満足している。

「問題点」

- 家庭学習（予習・復習・宿題等）について 3 年生はしっかりとできているが、2 年生の早い時期からは取り組めていないため、「もっと早くから取り組めばよかった」と感じている生徒が出ている。また 1 年生はゲームなどに気を取られ家庭学習時間を十分確保できていないものが相当数いる。
- ルール・マナー遵守の大切さについて一部の生徒及び多くの保護者に対してしっかりと説明できていない。
- 進路指導について満足度は低くないものの、保護者への情報提供（三者面談や保護者向け進路ガイダンスの充実）を求める声が保護者からあげられている。
- 令和 6 年入選、特に推薦に基づく入学選抜において集団討論を課したが、採点・事務処理に膨大な時間を要した。働き方改革との両立には多くの工夫・解決を図らねばならない。

「令和 6 年度以降に向けての姿勢」

- 価値観の多様化する中では、むしろすべての生徒が一定の社会規範意識が求められる場面があるため、将来に向けてルール及びマナーを指導する必要があることについて、学校は、生徒はもちろん保護者からも十分に理解されるよう、工夫と努力を重ねる。
- 三者面談や保護者に向け進路情報を提供する機会の拡充を確実に図り、保護者の学校満足度を高める。このため学校からの情報発信の工夫（回数、方法等）を重ねる。
- 保護者会等、保護者が来校した際の学校の受信力（傾聴姿勢）を向上させる。

今年度の取組状況と達成状況自己評価

達成状況	}	A：高い水準を達成	B：目標水準を達成あるいはほぼ達成
		C：目標水準へ一步	D：抜本的工夫が必要

令和5年度の取組について

1 学習指導（学びの基盤を固める）

- ① 「考えさせる授業」「知的好奇心を引き出す授業」を工夫する。
・教育課程委員会での検討に基づき観点別評価（1・2学年は3観点）の一層の改善を図った。
・「授業で勝負」「教養で勝負」を掲げて「対話的で深い学び」を実現できるように取り組んだ。
【評価】 B
- ② 学カスタンダードに基づいて、教科指導のマネジメントを定着する。
・教職員は本校スクール・ミッションを念頭に教育活動を実施し、保護者の教育目標認知度は前年60%から今年度は75%以上に向上した。
・学校評価アンケートで授業が学力向上・進路実現に役立っているとする生徒は65%以上。【評価】 B
- ③ 「未来の東京」戦略（令和3年3月策定）等に基づくDX化推進に取り組む。
・Teamsを活用するなど一人1台端末を活用した授業に積極的に取り組んでいるとする1・2年生は約70%いる（3年生については1台PC導入以前の入学）
・オンライン授業が授業に遅れない効果があったとした生徒は約75%、保護者では約80%いる。
【評価】 B
- ④ 学習に対する集中力を養い、受験に対する意識を高める。
・高校卒業後の進路目標を明確にもって学習に取り組んでいると思う生徒は約68%、保護者は約64%。
【評価】 C
- ⑤ 計画的かつ継続的家庭学習習慣等、自学自習の習慣化と充実を図る。
・生徒の家庭学習時間は平日・休日ともに向上傾向にある。
【評価】 B
- ⑥ 授業・行事におけるドレスコードと美しい言葉を大切にする。
・登校時の昇降口における指導等に計画的に取り組んだが、まだ工夫を重ねる必要がある。【評価】 C
- ⑦ 新たな教育課題に取り組む。
・「TOKYOACTIVE PLAN for students」（第4次推進計画）に基づく生徒の体力向上に努めた。
・国際理解教育推進活動に努め、外国人留学生（大学生）との交流や、1学年における海外修学旅行次年度実施に向けた事前準備の充実を図った。
【評価】 A

2 進路指導（生徒一人一人が自分と向き合う方法を身に付ける）

- ① 学校からの進路情報の発信
・情報提供や相談体制については検討課題があり、満足できる状況だと感じていない保護者が約半数に及んでいる。今後三者面談を確実に実施するなどの工夫が必要である。
【評価】 C
- ② 自習室・自習スペース等の活用
・自習室、進路資料室、学校図書館を活用する生徒数は学年進行にしたがって増加しており、第3学年では約40%以上が活用している。
【評価】 B
- ③ 進学指導体制の構築
・進路指導全体計画により、「進路の手引き」を活用し、学習のポイントや入試に関わる各種説明会を実施したが、学校の進路指導で将来の見通しがもてたとした生徒は1年生約65%、2年生約60%、3年生80%以上であった。
【評価】 B
- ④ 長期休業日や土曜授業日午後に講習・補習・教養講座を全校体制で実施する。
・長期休業中の講習は前年度より10講座以上少ない64講座の開催であり、同講習受講生徒は1795名であり、前年度より882名少なくなった。
【評価】 C
- ④ 第一志望を諦めない進学意識の高揚を図る。

- ・1年生は1学期に大学訪問を実施し、2学年は大学模擬授業体験と難関大学受験希望者向けスタディキャンプを2学期に実施し、学習意欲の向上へとつないだ。
- ・3学年は11月に出願対策講座を開催した。受験シーズンに入り欠席が増える生徒がある。「授業で勝負」をより浸透させるため、授業改善を図り、魅力ある授業とするため、学年・教科が協力して生徒の指導に当たることが課題である。 【評価】 B

⑥ 進路指導・学習時間の定点観測

- ・予定通り実施できた 【評価】 B

⑦ 情報収集

- ・予定通り実施できた 【評価】 B

3 生活指導（特別な支援の充実）

① 命と健康・安全を大切にし、基本的な生活習慣の確立に向けた指導を重点的に行う。

- ・命の健康安全指導を推進するとともに、丁寧な行動観察や相談体制を充実し、生徒の自殺予防を図った。
- ・集会やホームルームを活用し、自立心や公共心、規範意識を育成し、登下校マナー向上に努めた。
- ・校門、昇降口での指導や集会やホームルームを通して、自ら身だしなみを整える重要性を身に付けられるよう取り組んだ。自主的な身だしなみに関する意識を高めてゆくとともに、保護者にも校則についての理解を求め、丁寧な対応と傾聴に努めていくことが課題である。 【評価】 C

② 系統的・計画的指導を推進する。

- ・「都立高校生活指導指針」により系統的・計画的指導を実施した。 【評価】 B

③ 下校時刻（通常 17:00、特別居残 18:30）の厳守に努め、スクール・ライフ・バランスを図る。

- ・下校指導が以後の自習、読書、家族団らんに結びつくよう、一層の努力が必要である。 【評価】 B

④ 携帯電話の安全使用指導徹底を図る。

- ・生徒は「SNS 東京ルール」について理解はしているが、実践できないときがある。長時間ゲームに費やす生徒が増え始めている。セーフティ教室や情報あるいはホームルーム等での指導に加え、家庭（保護者）の理解と協力が必要である。 【評価】 C

⑤ 通学時のマナー向上指導等により他者に配慮する姿勢を育てる。

- ・自転車乗車時のヘルメット着用について全生徒に教育委員会編集の動画を視聴させるとともに、集会・HRや個別指導もおこなったが、着用する生徒は微増にとどまっている。生徒の命と安全を守るという観点からも一層の重点的取り組みを検討する。 【評価】 C

⑥ 関係諸機関と連携して主権者教育を推進、ボランティアマインド醸成、オリパラレガシー教育活動実施。

- ・教育課程届にある通り実施できた。新型コロナ感染症 5 類移行に伴い、校外でのボランティア活動も再開した。 【評価】 B

⑦ スクールカウンセラーと学年、生徒部、管理職が連携するため相談支援委員会開催を充実する。

- ・「学校いじめ対策委員会」を設置し、小さいいじめの芽も逃さない取り組みを進めた。委員会の招集から、学年全体と生徒部との情報共有の体制を整え、ケースに応じた対応を行った。
- ・成績会議に先駆け必要なケース会議を実施し、共通認識をもった。 【評価】 B

4 特別活動・部活動（学習目標・進路目標達成をエンカレッジする）

① 学校行事を通じて、東大和南生としての一体感と誇りを持たせ、学校生活を充実、発展させる。

- ・生徒による各行事の実行委員会を結成し、リーダーシップ、フォロワーシップを育成し、コミュニケーション能力の伸長を図った。 【評価】 B

② 部活動を通じてルールを順守する態度を身に付けさせ、目標に向かって協力し努力する態度を身に付けさせる。

- ・各大会で上位10%入りを目指し、各部が成果を上げた。
水泳部 関東大会出場 インターハイ出場
女子バスケットボール部関東大会出
- 【評価】 B

③ 顧問会議、部長回答を通じての部活動における体罰・暴力防止の徹底を図る。また保護者との連携強化。
・教職員の指導に加え、部活動保護者会を適時開催して、信頼関係の情勢や情報共有を図った。【評価】 B。

④ 外部指導員の登録・委嘱、部会計管理について適正に実施する。
・保護者の理解も得て「働き方改革」への努力を試みているが、部活指導による在校時間に慢性的課題のある教職員をゼロにするまでにはいたっていない。 【評価】 B

⑤ 文化スポーツ等推薦の規約に基づく実施と、同制度による入学生の健全育成を図る。
・一部当該入学生の学力向上に係る課題があり、部顧問と教科担当教員や学級担任との一層の連携も必要である。 【評価】 B

⑥ 生徒が知的好奇心と自己表現力を十分に発揮できる機会を設ける。
・マスクをはずしてうたった合唱コンクール、コロナ禍以前の内容への復活に努めた楠翔祭（文化祭と体育祭）の三大行事について3学年そろって実施した。 【評価】 A

5 安全保持と環境美化

① 関係機関や地域の協力を得て、防災教育を推進する。
・防災訓練の実施を通じて、自助・共助の精神を育み、危険を予知し回避する能力を伸長した。【評価】 B

② 保健衛生管理の徹底を図る。
・部顧問、学級担任と保健室が連携してのアレルギー疾患対応や緊急時の救急車要請など全教職員で対応した。 【評価】 B

③ スクールカウンセラーと生徒支援委員会とで連携し、支援内容の検討と対応を行う。
・特別支援教育コーディネーターと連携して資料研究を行い、特別支援教育への理解を深めた。 【評価】 A

④ 体力テストの実施と活用を図る。また球技大会においてスポーツに親しむ態度を養う。
・体育活動を推進し、生徒実行委員会が主体的に運営する球技大会の実施により、親睦が図られた。【評価】 B

⑤ 環境美化や緑化を推進し、これらに配慮する生活習慣を樹立する。
・生徒と共にゴミ分別や節電・節水励行などに努めた。清掃活動は「大掃除」と称して、行事等に先だっておこなうものや、監督教員がつく場合は徹底するが日々の清掃は必ずしも徹底しておらず、アンケート調査の保護者からの自由意見でふだんからの清掃の徹底を求める声が複数寄せられている。 【評価】 B

6 広報活動の充実（発信先＝本校保護者と生徒、中学生と中学校・進学塾・卒業生）

① ホームページ掲載とスクールガイド配布に努める。
・ホームページ更新は1週間に10回以上に及んでおり、スクールガイドは年間2500部以上の配布をした。一方で学校側に意見を聞いて欲しいという傾聴や受信を求める声が多く、この声に応える工夫検討したい。 【評価】 B

② 総務部の進行管理のもと、全教職員による広報を目指す。
・中学校・塾訪問等はまだ一部の教職員に限られている。 【評価】 C

③ 授業公開、学校見学会、校内開催学校説明会の一層の充実を図る。
・夏季学校見学会には2473名、学校説明会には2075名と前年度を上回る参加者を得たが、推薦入試応募倍率3.3倍、学力（一次）応募倍率1.39倍と昨年応募倍率に及ばなかった。 【評価】 B

④ 中学生向け部活動体験を実施し、本校への理解啓発活動とする。
・野球部、サッカー部、男女バスケットボール部等で体感入部活動を実施した。 【評価】 A

- ・一次学力の応募倍率は 男子が 1.59 倍、女子 1.11 倍（推薦と同様に女子応募者が少なかった）
- ・本校の部活動への関心は高く、スポーツ特別推薦を実施しているが、今後校内の指導体制を含め実施部活動についても検討を重ねる必要がある。
- ・推薦選抜、一次学力検査の何れも適正な組織的取り組みについて検討課題がある。 【評価】 B

7 組織的な学校運営（「組織目標」に基づく学校経営）

- ① ライフワーク・バランスの実現に向け、効率的業務遂行に努める。
 - ・本年度も業務縮減、ペーパーレスの取り組みとして、全ての職員会議をペーパーレスで実施した。加えて企画調整会議や入学選抜委員会等でもペーパーレス化した。
- ② 電子起案による校内文書管理の徹底を図る。
 - ・95%以上の電子化を達成しているが、教育職員では自身だけでは起案処理できない主任教諭と教諭がゼロにはなっていない。起案による意思決定についてさらに理解と実践がすすむよう工夫したい。 【評価】 B
- ③ OJT による教員養成、教員系と行政系の合同研修を実施する。
 - ・主幹教諭、主任教諭と新規採用教員との合同 OJT 研修を実施し、相互理解を深めた。
 - ・新規採用教員と新規採用行政職員との合同研修会を開催した。 【評価】 A
- ④ 生徒の読書習慣の確立のために取り組む。
 - ・校内ビブリオバトルや図書館イベントを開催した。
 - ・司書不在時の開館体制は構築できなかった。 【評価】 C
- ⑤ 東大和市・武蔵村山市との連携と 40 周年記念事業準備を開始する。
 - ・東大和市「うまかんべえ祭」への生徒参加、武蔵村山市教育長と校長との面談をおこなった。
 - ・周年記念誌編集は令和 6 年 3 月現在進行中（同年 4 月 1 次原稿完成予定）。 【評価】 C

8 経営企画室（行政指導発信基地）

- ① 予算執行状況の四半期ごとの確認と運営を行う
 - ・ほぼ計画に基づき、適正に運営した。 【評価】 B
- ② 就学支援金制度についての効率的事務処理推進と安全な個人情報管理を図る。
 - ・教育職員による理解は進んでいるが、一部の主任教諭の中で理解不足の者もいるので、研修徹底をしたい。 【評価】 B
- ③ 既存物品の有効活用のため、管理体制を整える。
 - ・都のあっせん情報を収集し、配置換えによる有益な物品として引き違い戸つき書庫などを無償で取得した。 【評価】 A
- ④ 資源ごみのリサイクルと節約を推進する。
 - ・電気、ガス、水道の使用量を毎日確認して記録し節約に努めた。記録は職員に回覧し、周知による省エネ意識の醸成を目指した。生徒への周知実行までにはいたらなかった。 【評価】 B
- ⑤ 真に必要な施設・設備造改修要望を迅速に行う。
 - ・必要最低限の環境改善に係り、迅速な要望ができたが、床・壁等の施設や空調設備等の経年劣化など未解決の課題は多い。 【評価】 B
- ⑥ 経営企画室からの行政的視点に立った意見を発信する。
 - ・意見の発信にとどまらず、教育系職員等の声の聴き取り（受信）による課題の把握も行い、校長へ報告した。 【評価】 A

VIII 数値目標と結果

	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度目標値	5 年度
広報活動充実させ、募集対策充実	夏季見学会来場者数					
		380 名	1080 名	2224 名	2300 名	2473 名

	学校説明会参加者数					
		1620名	1950名	1836名	2300名	2075名
	入学選抜【推薦に基づく選抜】応募倍率					
		4.3倍	3.1倍	3.4倍	3.5倍	3.3倍
	入学選抜【学力検査に基づく選抜】応募倍率					
	1.46倍	1.6倍	1.4倍	1.5倍	1.39倍	
進学実績を向上させる。	国公立大学（四年制）合格者数					
		10名	10名	14名	15名	12名
	（現役）	6名	10名	12名	13名	11名
	難関私立大学合格者数（早稲田・慶応・上智・東京理科）					
		15名	5名	9名	5名	8名
	（現役）	15名	5名	3名	3名	7名
	私立大学合格者数（学習院・明治・青山学院・立教・中央・法政）					
		143名	113名	107名	110名	106名
	（現役）	130名	96名	96倍	100名	100名
大学入学共通テスト出願者数						
	215名	220名	228名	230名	220名	
長期休業中の講習を充実	長期休業日の講習講座数					
		159講座	150講座	79講座	120講座	64講座
	長期休業日の講習受講者数（延べ）					
		1582名	946名	2677名	2000名	1795名
家庭学習時間を増加	家庭学習時間					
	1年（平日）	62分	76分	58分	70分	71分
	1年（休日）	73分	94分	77分	90分	86分
	2年（平日）	67分	99分	56分	90分	84分
	2年（休日）	86分	114分	71分	120分	107分
授業改善、生徒の授業満足度増加	学校評価項目『4』の「A:大変そう思う」「B:そう思う」の合計ポイント					
	あなたは全体として本校の授業に満足していますか。					
		74.6%	78.8%	82.5%	83.8%	90.0%
進路指導満足度を向上させる。	学校評価項目『8』の「A:大変そう思う」「B:そう思う」の合計ポイント					
	あなたは、本校の進路指導で将来の見通しが持っていますか。					
		66.1%	69.5%	70.0%	75.4%	80.0%
特別活動充実、学校満足度を向上	学校評価項目『14』の「A:大変そう思う」「B:そう思う」の合計ポイント					
	あなたは本校の学校行事に関わることで学校生活の充実感を得ていますか。					
		89.9%	94.6%	51.0%	87.0%	90.0%
部活動を充実、学校満足度向上	学校評価項目『15』の「A:大変そう思う」「B:そう思う」の合計ポイント					
	あなたにとって、部活動に関わる事が学校生活の充実につながっていますか。					
		82.6%	83.0%	85.0%	87.4%	90.0%